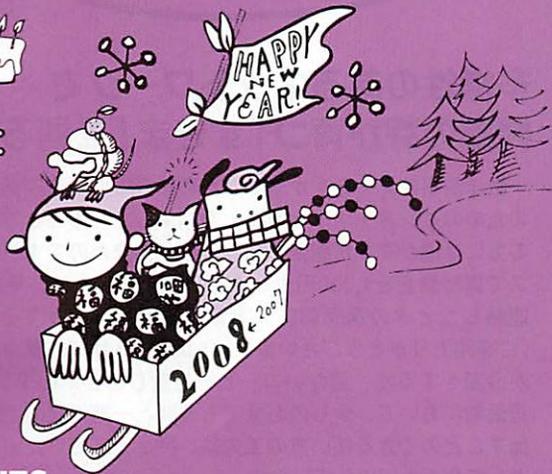


Ohmi net

No. 61
 12・1・2月号

おうみネット

- 発行日/2007年12月1日
- 発行所/(財)淡海文化振興財団



CONTENTS

特集●淡海とびっくす 2
 これからの市民活動を考える... **パート3**

市民活動

継続と発展を考える

～NPO法人ねおすの事例を通して

■元気NPO探し隊 7 8

- 特定非営利活動法人 大津まわりの会
- Paddy ●ふけ町ふるさとクラブ

■孫の手ナビ 9 10

【そこが知りたい!NPO運営術 VOL.9】
 【Sekenよし!】
 有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊國屋

■支える・つなぐ・結ぶ

にゅ～す宅配便 11
 情報BOX 12

■Ohmi net INFORMATION

12月・1月・2月 13 14

この日なんの日?

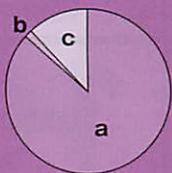
12月	1 映画の日 世界エイズデー 土	2 日
8 対米英開戦記念日 土	9 障害者の日 日	10 世界人権デー 月
10 おうみNPO活動基金 (A) 選考公開プレゼンテーション 電話の日 日	17 月	18 火
24 月	25 クリスマス 火	26 水
1月	1 元旦 火	2 水
8 火	9 水	10 110番の日 木
16 禁酒の日 水	17 防災とボランティアの日 木	18 金
24 法律扶助の日 ボーイスカウト創立記念日 木	25 日本最低気温の日 金	26 文化財防火デー 土
2月	1 テレビ放送記念日 金	2 土
8 日	9 土	10 日
17 土	18 嫌煙運動の日 月	19 火
24 おうみNPO活動基金 成果発表会 地雷を考える日 日	25 月	26 血液銀行開業記念日 火

「あなたが 市民活動に 関わるとしたら？」

●巻頭アンケート結果

Q1

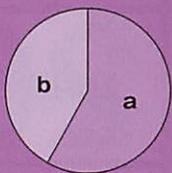
市民活動は
地域や社会にとって
大切だと思う？



- a. 思う…86.7%
- b. 思わない…1.5%
- c. わからない…11.8%

Q2

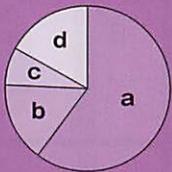
コミュニティービジネスや
社会起業という言葉を知っていますか？



- a. はい…58.1%
- b. いいえ…41.9%

Q3

あなたが市民活動に
関わるとしたら？



- a. 活動の参加…60.3%
- b. 寄付…15.4%
- c. その他…7.4%
- d. わからない…16.9%

アンケート：携帯情報メール発信会社「J2メール」協力
回答者 総数136名 男性42名 女性66名 不明28名
10代…0名 20～30歳…33名 31～40歳…46名
41～50歳…38名 51歳以上…5名 不明…14名

[3月・4月・5月号のアンケート]
次回3・4・5月号は「市民活動・これからの10年」をテーマにしたアンケートを実施します。読者のみなさんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくはP.13をご覧ください。

V・O・I・C・E



多様性のあるネットワークで 発展の芽が育つ「すきま」を創る

数年前事務局をあずかっていた京都のNPOで「視覚障がい者のためのインターネット講座」を開催した時のことです。講師の方には僅かですが謝金を払うことが出来たのですが、計算ミスで講師謝金を1,000円少なく振り込んでしまい、平謝りでご連絡したときの講師の方の言葉を忘れてできませんでした。「ご連絡ありがとうございます。1,000円あれば、寒い日に仲間が会議をする時、温かいコーヒーを飲むことが出来ます」。市民活動において、少しのお金でも仲間と一緒に次の活動を生み出すことのできる使い方の工夫は、押さえておきたいポイントとして今も大切にしています。

★子どもの笑顔と歓声がするマチに

先日、自然体験活動を総合的にプロデュースしている「NPO法人ねおす」の高木代表にお越しいただき、意見交換会を開催しました。ねおすは、6月24日開催した10周年記念フォーラムの基調講演者川北さんの資料でも紹介されていた団体です。

いろいろな人と組むことにより次の展開が見えてくる。大切なのは、思いこみに走らず、思いの共有。多様なスタッフ構成を心がける。覚悟をすること。など高木さんにお話いただきました。様々な人が関われる「すきま」をつくることで、多様性のあるネットワークが生まれ発展の芽が育つ重要性や「子どもの笑顔と歓声がするマチをつくりたい」という高木さんの強い想いに共鳴しました。

★「ひとつにまとめる」から「中心の無い動的ネットワーク」へ

多様性のバランスやネットワークに関して更に体感したい方は、12月21日（金）、22日（土）に、10周年記念事業第2弾「現場で学ぶ！『おうみ市民活動楽宿』」にご参加ください。のべ13万人以上の市民が参加している市民型公共事業「アサザプロジェクト」に取り組みされているNPO法人アサザ基金の飯島博代表理事においでいただき、既存の枠組みを超えて地域課題に取り組む方策や具体案に関して語り合う座談会やフィールドワークを行います。社会変革を起こす協働の解は、「中心の無い動的ネットワーク」にありとする飯島さんとの密着1日半。多くの方の参加をお待ちしています。

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

これからの市民活動を考える

パート3

市民活動



継続と発展を考える～NPO法人ねおすの事例を通して

NPOの存在が広く知られるようになっておよそ10年が経ちました。これから新しい公共の担い手として期待されるNPOが継続・発展していくための組織運営のカチを考えます。

NPOとひとりで言っても、組織運営のカチはさまざまです。ほとんどボランティアだけで運営されることや、会費や寄付で支えられる活動、行政からの委託事業や、民間財団からの助成金を受けながら運営するところ、その複合型で運営しているところ。多彩な活動を展開するNPOは、資金の集め方も多種多様です。対

価を得る事業を行うことが難しい活動や、委託や補助を受けながら、行政に代わってその役割を担っている場合など、その分野や内容、また、メンバーの思いなどによって、様々なタイプがあります。それらの中で、今回は、地域の多様な主体とのネットワークを築きながら、独自に生み出した事業で収益を得ながら社会の課題解決に取り組む、NPO法人ねおすの事例をととして、団体を継続・発展させていく方法の一つ「市民事業」についてお伝えしたいと思います。

今回の特集は、情報交流誌「おうみネット」公開座談会として開催した内容からお届けします。

大室 NPO法人ねおすはどのような団体なのですか？

高木 自然体験活動を手法に、北海道で「環境」「観光」「教育」「地域作り」などを手掛けるNPOです。「人と自然の新しい関わり方、暮らし方を提案することで、持続可能な新しい社会づくりに貢献する」をミッションに、子どもから大人までの自然体験活動プログラムの企画・実施から指導者の育成、学習拠点作りまで自然体験活動を総合的にプロデュースしています。エコツーリズム(※)を通して、北海道らしい自然体験文化を育てたいと考えています。

大室 ねおす設立までの経緯を教えてください。

高木 私は千葉県の出身ですが、幼少時代に訪れた北海道の印象が強く、大学の時に来た北海道でそのまま就職しました。その後転職し、健康産業に関わるスポーツクラブを運営することになり、初めてそこで子どものキャンプなどを企画実施する経験をしました。バブル崩壊で会社の経営が苦しくなる中、自分は本当は何がしたいのかを考えるようになり、社会教育に携われる専門学校に再度転職しました。その理事長の支援をもって、「北海道自然体験学校NEOS」を立ち上げたのですが、不採算部門で整理されることになり、それを契機に独立しました。

大室 人生をかけた転身ですね。

高木 そうですね。NPOではありませんが、これで食べていく覚悟でした。

Profile



高木晴光 (たかぎ はるみつ)

NPO法人ねおす代表。北海道黒松内町にある自然学校に在住。会社員時代に自然に関わる仕事を経験し、それを生業にしたいと、ねおすを設立。他役職にNPO法人北海道NPOサポートセンター理事、日本エコツーリズムセンター理事、NPOバンク事業組合理事長など。モットー：「考えるだけのTHINK-TANK(シンクタンク)型じゃありません。私はDO-TANK型人間です」。



大室悦賀 (おおむろ のぶよし)

京都産業大学経営学部専任講師。2007年度より淡海ネットワークセンターおうみ市民事業創出支援プロジェクトマネージャー。

※自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた。環境保全、観光振興、地域振興の効果が期待されている。



▲高木晴光さん

大室 なぜNPOだったのですか？

高木 会社にするかNPOにするか、当初スタッフで話し合いました。その結果、社会性・公共性をきちんと訴えていく分野だと思い、NPOを選択しました。

大室 最初から事業で得た収入で運営を行うNPOだったのですか？

高木 そうです。キャンプやエコツアーなどの参加者負担があって、その収入で事業を展開していました。

大室 立ち上げ時から運営はうまくいきましたか？

高木 私たちの場合、専門学校の時の顧客を一定ねおすに引き継ぐことができませんでした。経緯も丁寧に説明していましたので、

大変だろうからと参加費を先に振り込んでくれたりと、借入れはなくスタートできました。設立当初のスタッフ数は三名。日々なんとかやりくりしている状況で「赤ちょうちんに行こう」というのが最初の目標でした(笑)。

大室 お金をとることに抵抗はありませんでしたか？

高木 その辺りは割り切っています。ミッションの達成はとも強い意志と継続した行動によって実現されていくものだと思います。参加費をとることが第一の目的ではなく、ただけるところからはいただいて、その分責任をもって、地域再生・環境保全など様々な課題解決に継続して取り組んでいきたいと思っています。

大室 事業はどのようにして広まってきましたか？

高木 できそうな事業はどんどんやってきました。さまざまな課題を解決していくためには、同時に複数動かしていくことも必要です。動き出したらくい違ってくることもあるので、微調整はたえず行います。順序立てて頭で考えるよりもまずはやってみる。その積み重ねでしょうか。最初は今日は食べていけない、といったところから一か月乗りきった、半年はやっていけない、と見通しのつく期間が徐々にのびてきた状況です。

大室 市民事業型NPOの先進事例として有名なねおすさんですが、なぜここまでになったと思われるか？

高木 はっきりこれだという要因は分かりませんが、ねおすは次の5つの方針を大切に活動を展開してきました。それを紹介します。

1 様々なネットワークで活動を展開していく。

これはねおすの重要方針です。他団体、地域や行政など、どこかつながって事業を進めるようにしています。その理由は、さまざまな背景をもった人たちと関わることで、新しい価値に触れることができ、事業の可能性が広がっていくからです。例えば、地域の人や障がい者団体など異分野、異業種の団体や人と接点をもつことで、多くの気づきが生まれます。そこで、自分たちは次に何ができるかを考えることになり、そこから新たな事業が生まれてきました。自分たちでやるほうが早くて簡単なことも、あえて隙間をつくって様々な人が関われるようにしています。

2 組織と個人のミッションのバランスを常に意識する。

さまざまな事業を展開していくと、組織と個人のミッションにずれが生じてくることがあります。ねおすでは、スタッフにまず「この事業やりたい？」と聞いて話しをし



▲大室悦賀さん

活動を続けていくと、思いがいつの間にか個人の思いこみに変わることがあります。これはとても危険です。われわれNPOは、社会や個人がよりよい方向に成長していくために活動をしますが、その方向を誤らないためにも、様々な人や団体と関わって、思いに公共性があるかたえず評価される場をもつことが大切です。

3 「思い」が「思いこみ」にならないように、公開して思いの公共化を図る。

ます。その中で個人と組織のミッションを天秤にかけ、個人のモチベーションが低い時はやらない場合もあります。問いかけていく中で、個人のミッションが強くなり組織と違うものになってくることがあります。その時は、組織を別に分けていきます。「NPO法人北海道山岳活動サポート」がそうです。これはマイナスイメージではなく、役割分担が明確化されたことで、別組織になった後も互いに支えあえる心強い存在になっています。

NPO法人ねおす紹介

住所：北海道札幌市中央区宮の森2条14丁目1-14
TEL 011-615-3923 FAX 011-615-3914
URL <http://www.neos.gr.jp/> e-mail npo@neos.gr.jp

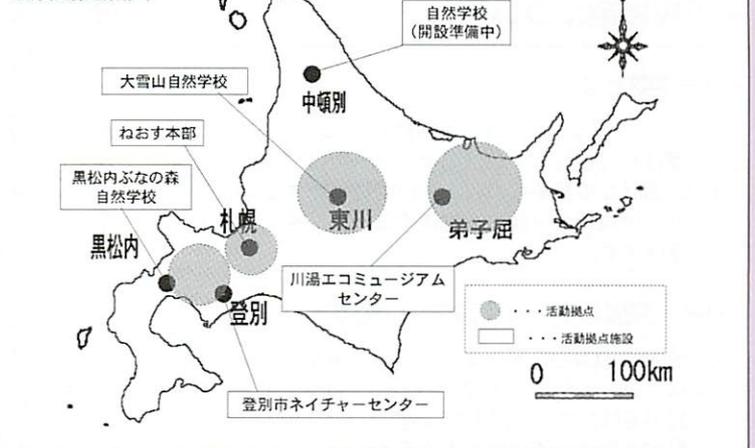
- 代 表：高木晴光
- 設 立：1997年（法人登記は1999年）
- 活動内容：
 - ①自然体験活動（エコツアー・自然学校・環境教育など）
 - ②各種研修・講座・調査等の受託
 - ③人材育成（自然ガイド・自然体験活動指導者養成など）
 - ④他団体の運営支援
 - ⑤地域支援
 - ⑥起業支援 など
- 会 員 数：◆正会員（個人24名、団体5団体）／◆一般会員（現在関連する旅行組織の管理となり、約200名）／◆賛助会員（個人45名、団体5団体）※2007年10月現在
- スタッフ数：専従職員15名（通年雇用）
- ボランティア：約200名
- 2006年度決算：
 - ・収入85,306,080円（事業収入86%、会費1%、寄付2%、補助金・助成金11%）
 - ・支出81,417,718円（総事業費35%、その他管理費65%）
 - ・繰越3,888,362円

事業一例

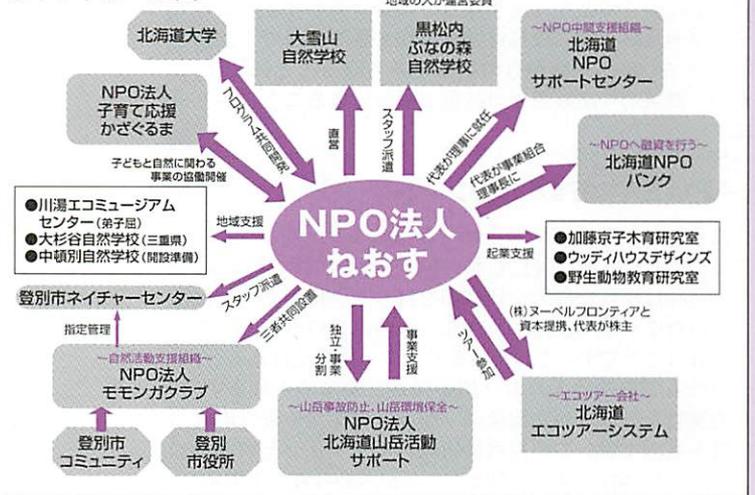
～夏の長期自然体験村 (in黒松内ぶなの森自然学校)

期間：19泊20日（夏休み期間中）
参加料：小学生128,000円、中学生130,000円（交通費別途）
内容：釣り・川下り・磯の長距離歩き・自転車など、海、川、森など自然を活かした活動を行う。この間に、黒松内の子ども達と交流する日、地域のお年寄りと交流する日などもあり。終日のんびりと過ごす日も数日取り入れている。

●活動拠点図



●ネットワーク図



4 人(スタッフ)を育てる。

これも重要方針です。ねおすは、最終的に社会に役立つ人を育てる、という目標があります。だから、ねおす自体を大きくしたいのではなく、そうした人がねおすから育っていったら、これからの社会をつくってほしいと思います。先ほど、できそうな事業はどんどんやってきたと言いましたが、これはスタッフのトレーニングにもなるからです。事業をきっかけに地域や異分野の人と接点があれば、個人の成長のチャンスがあるわけで、これはコストでは計れない効果があります。

5 より現場に近いところに権限を移譲する。

常に活動を展開しているねおすの場合、トップダウン方式でやっている現場が動きません。現場で判断



してやっていくことは、個人のモチベーションをあげるとともに、育てることもなります。そのため、過去様々な問題が起こりましたが、そうした時に備えて代表や理事

が責任をとれる体制づくりをつくっておいで、スタッフを安心させながら細かい失敗を経験させる環境をつくるのが大切ですね。組織が大きくなればなるほど、情報はすべて共有できないものと思っています。

大室

方針の端々から様々な人、団体とネットワークをもつことの大切さを感じますが何か根拠があることですか？

高木

私自身がさまざまな人と関わる中で自己開発されてきたという実体験があるからです。これまで何度となくカベにぶちあたってきましたが、そのカベを乗り越えてこられたのは立場の違う人との出会いがあったからで、ネットワークの良さを自分の中で実感してきたからです。

大室

ねおすのこれから目指されるところを教えてください。

高木

スタッフがさまざまなかたちで独立していき、将来的にはねおす本部は小さくして、独立したところに事業を委託したり、独立先を総合支援していきたいと思っています。たとえ小さくても社会提案していく組織や人を増やしていきたい、微力ながら社会に貢献していきたいと思っています。

次号はいよいよシリーズ最終回。

「市民活動 これから十年を予想する」をお届けします。

大室のワンポイント解説

●市民事業について

～市民事業とは～

コミュニティビジネスや事業型NPO、社会的企業など、色々な呼ばれ方をしますが、当センターでは“市民活動団体が、多様な事業からの収入を得て持続可能な仕組みをつくり、地域社会の課題を解決する活動”を「市民事業」と呼びます。

～継続・発展していく手段の一つです～

NPOが社会的課題を解決するために大切なマネジメント要素は、「人」「もの」「資金」「情報」の4つです。このうち市民事業は、多くの団体で課題とされている「資金」面について、社会的価値のある事業を展開しながら、併せて収入も確保していく点で、団体を継続・発展させていく手段の一つとして近年注目されつつあります。このタイプの良い点は、独自財源を確保できることで、常勤スタッフの雇用や他からの信頼を勝ち取ることになり、かつ、継続的な組織運営の基盤が構築できることにあります。

～NPO法人ねおすのポイント～

高木さんの話を2点にまとめてみましょう。高木さんは異分野の人たちと意図してネットワークを広げています。この意味は異質な経験や価値観を持つ人々に出会うことで、新たな事業の創出や新たな自分の成長のきっかけを得られることです。この視点をリーダーに当てはめると、異質なものを受け入れる「懐の深さ」が求められます。一方異質なものと交流はミッションの深化や変質の可能性を高めます。この視点は組織のミッションと個人のミッションとのバランスをとることが求められます。極端に個人のミッションが強くなるようであれば独立させることを考えることも必要です。つまり、単一の組織に固執するのではなく、社会的ミッションの達成のための多面的な組織戦略を考えるということです。

特定非営利活動法人 あさがお

私たちは介護保険法と成年後見制度の発足や、高齢者の虐待防止法の施行の環境の中、高齢者や障がい者の人権と生活を守るための総合相談事業や法人後見活動を行っています。平成17年2月に発足し丸2年を経過しました。総合相談事業では、平成17年度160件弱、平成18年度290件とほぼ倍増しており、また、法人後見事業は平成17年度12件、平成18年度46件と4倍に伸びています。このことから今年度は事業が安定し、事業の一定の方向性が見えてきました。親族による虐待や第三者による悪徳商法や虐待など、いろいろな問題がある中、スタッフ同心あわせて



れら課題の解消に努力するとともに、成年後見制度の理念としての、
①ノーマライゼーション、②自決性の尊重、③身上監護の尊重の三つの精神を、あさがおのスタッフが十分に体得した事業を進めたいと思っております。

早崎ピオトープネットワーク

日本一広さを持つピオトープ実験地「早崎ピオトープ」を使った水棲生物観察会や、「冬のコハクチョウ観察エコツアー」などを開催。一方、地元小学校の総合学習としての観察会や室内授業・聞き調査をサポートしています。総合学習や観察会に参加した地元の子もたちが大人になり、ふるさとを離れ遠くで暮らしている時、「ふるさとの原風景は？」と聞かれたら、この「ピオトープ」を頭に描いてくれたらな…と思っています。現在この「早崎ピオトープ」は、あくまでも実験地であり、現在の5倍広さ90ヘクタールのピオトープが計画されています。観察会はもとより「カヌー」によるエコツアーなどさまざまな展開を期待しています。



れています。観察会はもとより「カヌー」によるエコツアーなどさまざまな展開を期待しています。

特定非営利活動法人 朽木針畑山人協会

設立後、はや5年。地域を良くしたいという気持ちから始まりましたが、その気持ちに代わりは無く、ゆっくりとではありますがかたちになってきたであろうと思います。今はスタッフの入れ替わりも進み、手法などには少しズレが生じています。個々の思いを大切にしながら、過疎と高齢化に喘ぐこの地の創造的な再生と活性化を目指して活動してゆきたいと考えています。



地域がいい方向に移り行く、そんな実感を今感じています。小さな地域ではありますが、その歴史に加わることが出来る喜びが大きいです。

市民活動にかかわるみなさんに聞きました！

市民活動にかかわるみなさんに聞きました！
「活動内容」「団体の思いはカタチになってきましたか？」「これからの団体の元気のミナモトは？」について、自由に語っていただきました。

近江渡来人倶楽部



近代の渡来人である、在日韓国・朝鮮人への「根拠のない民族的偏見や差別」を解消することによって、ルーツを隠すことなく堂々と暮らすことのできる「自由で公正な開かれた社会」そして現代の渡来人である、日系人やアジア人などの外国籍住民に対する

「無理解」や「排他的な対応」を改善することによって、地域社会の一員として心豊かに暮らすことのできる「包容力と多様性を持った多文化共生社会」の実現をめざしています。「ヒューマンティフォーラム21」（年1回/3月）「おうみ多文化交流フェスティバル」（年1回/9月）「OTCマダン」（偶数月/2か月に1回）の事業が定着し毎年来場者が増え、企画する側も大変楽しみにしています。また、近江渡来人倶楽部に関連の「渡来人歴史館」も団体などの来場が増え、研修会にも利用していただいています。事業などの終了後に「よかった」と一言してもらえるのが元気の源です。

特定非営利活動法人 NPO子どもネットワークセンター天気村

子ども支援という分野で、時代の変化と共に常に子どもの中からニーズに応じて活動してきました。現場の厳しさ楽しさの両方から培ってきた「現場ならではの豊かな方法論」が、天気村の財産です。多様化する世の中の価値観の中で、そして隔絶しつつある世代間の狭間で、できれば誰もが経験した「子ども」をキーワードにして一つの価値観が共有できる地域社会をつくる後押しができればいいと思っています。「感動」がエネルギーの源。「おもしろい」が動く源。さて、皆さんに問題です。NPO活動…「動かないとなくなって、動くともどんどん増えるもの、なんでしょう？」答えは：nt-tenki@biwako.jpへ。皆さんからのピリッとスパイスのきいた鮮度とフットワークの「これじゃ!!」「korezya!!」の答えをまっています!!
天気村はそれが一番大事!!



特定非営利活動法人 芹川

私たちは彦根の市街地を流れ、樹齢400年の多様な顔を持つツケヤキに飾られた芹川を美しくして後世に引き継ごうと平成12年から活動しています。活動は子ども達や高校生なども含めて約1200人で年1回の一斉草刈・清掃と毎月清掃です。このため、散歩しながらゴミ拾いをする光景も見られ、以前よりは美しくなっているとと思っています。今までは芹川に関心を持っていただくために芹川



狂言の開催やひこにゃん測量、いちごパーク、りんご園、湖東焼窯の整備をしてきました。活動から7年が経つと情性に走りがちです。“継続は力なり”を胸に秘め、今後の市民活動が行政の実施してきた公的な仕事の一部を担わなければならないと考え、活動を続けようと思っています。

元気探し隊

GENKI SAGASHITAI

NPO

12月31日「大晦日」

福祉

特定非営利活動法人
大津夜まわりの会

原点はホームレスの人たちの支援。
目指すは地域のセーフティ
ネットワークづくり

「びわ湖岸の公園でごみを拾っていたら寝ている人に出会った。話をしているうちに、その人が何を求めているかが分かり、力になればと思った。」林さんが、今の活動を始めた原点だ。ホームレス生活を余儀なくされている人達が抱える生活問題の解決を支援し、貧困を解消して社会福祉に役立ちたいという思いから、二〇〇二年から活動を開始。二〇〇七年にNPO法人化し、現在は、大津市市民活動センターのスマールオフィスに事務所を置く。

住む家がないことから発生する困難。病气、虐待、そして自殺。道で倒れて病院に運ばれ治療を受けても、退院してからの行き場がない。

こうした人達の入居支援、



●定例理事会の様子

毎月19日「食育の日」

教育

Paddy

日本の風土で育った恵み
お米の大切さ、ごはん食の大切さを
伝えたい

Paddyは「稲穂」のことで、ごはんを中心とした食生活を大切にしたいという思いから付けられた。子どもの食生活の乱れに危機感を持っていた代表の渡辺さおりさんが、南口明子さん（事務局）に声をかけて二〇〇三年十月に立ち上げた。

まず、栗東市の教育委員会から情報を得て、学校給食の実態を知り、子どもの健康面から学校給食の改善につなげたいと、完全米飯給食を提案した。生活習慣病にかからないために、油脂を減らす食事として、ごはんの大切さを知ったからだ。生活習慣病の要因のひとつは油脂



●食育セミナーの様子



●代表の渡辺さおりさん（左）と事務局の南口明子さん（右）

イキイキとした暮らしや、地域の魅力を創るために、日夜奮闘している元気なNPOを探し出して、応援していきます。

1月17日「防災とボランティアの日」

まちづくり

ふけ町ふるさとクラブ

自分たちで考えるから楽しい—
小さなことから始まる
ボランティア活動の原体験

「子どもを取りまく環境は日々変化しています。遊びも大きく変わり、仮想の世界に夢中です。ゲームでは経験できないことを子どもたちに体験させたい」と、同クラブの世話役・長谷川恭子さんは、二〇〇六年十一月に、守山市浮気町内の子どもたちに呼びかけ、現在、小学生十三人、中学生一人の計十四人のメンバーが、子ども会活動とは別に、自由参加のボランティアグループとして活動しています。

「防犯・冒険・ボランティア」を合言葉に、地域の人に作ってもらった拍子木を鳴らしながらの夜回り、使い終えたランドセルをアフガニスタンなどに贈る「想い出のランドセル募金」への協力、防災



●世話役の長谷川恭子さんとメンバー



●発起人の1人、林弘夫さん

生活保護申請支援、医療と衣料の支援、食糧支援、就労支援、年金手続や金銭管理、さらに在宅者の生活支援へと活動の範囲は広がっていく。

「自分の生き方に対する葛藤。人に頼まれれば断り切れない性格。相手にとって役立つと思えば夢中になってしまふ」と林さんは言う。

何か理由を付けて、見て見ぬ振りをしてがちなのが人の世の常というもの。

困った人のためとはいえ、入居支援に伴う保証の問題等を考えるとリスクの大きい活動であるが、メンバーの熱い思いと、全国の先進事例からの情報や専門家とのネットワークを駆使して、保証の仕組みづくりといった困難課題の解決にも意欲を見せている。

「寮を出された失業者や自殺や餓死に直面する人が、住む場所を持ち再出発の機会を得ることで地域は安定する。入居支援をすることで解決できることは少なくない」という大津夜まわりの会の目標は、地域のソーシャルセーフティネットワークづくり。地道であるが、大津夜まわりの会の活動は、社会の理解を得て徐々に広まっており、社会の暗闇に光明を照らす価値ある存在に育ちつつある。

頑張れ！大津夜まわりの会。
(編集ボランティア 森口行雄)

特定非営利活動法人 大津夜まわりの会

理事長●小坂時子 設立●2007年 会員●12名
連絡先●大津市浜大津4-1-1 大津市市民活動センター内
TEL : 077-521-3603 e-mail : kosaka.tokiko@white.plala.or.jp



●親子料理教室での味噌づくりの風景

(編集ボラ
ンティア
阿部圭宏)

の取りすぎだという。Paddyの提言もあり、栗東市は二〇〇六年四月から県内で初めての完全米飯給食を実施した。完全米飯給食のおかげで、地元産の米や野菜の消費拡大につながるという副次的な効果も生まれている。

Paddyの次の目標は教育ファーム(※)の推進である。今年、「りっとうガンバル基金」の助成を受け、教育ファームを栗東で実践していくきっかけとするため、二〇〇八年二月三日(日)に「りっとう教育ファーム推進に向けたシンポジウム」の開催を予定している。

こうした提言活動に加え、公民館や児童館などを利用し、親子料理教室、栗東産無農薬大豆を使用した味噌作り教室、食育セミナーの開催なども精力的に行っている。渡辺さんは「滋賀の食の魅力を感じられる子どもを育てたい」、南口さんは「栗東から日本の食を考えるように発信したい」と、二人の食への思いがあふれている。



●年2回発行される会報誌

Paddy

代表●渡辺さおり 設立●2003年 会員●約20名 連絡先●栗東市上砥山800-58
TEL/FAX : 077-558-0538 e-mail : saori-watanabe@mx.scn.tv
※自然の食に関わる人々のさまざまな活動への理解を深めること等を目的として、農林漁業者などが一連の農作業等の体験の機会を提供する取り組みで、農林水産省が提唱、推進している。



●アフガニスタンに贈るランドセル

マップづくりなどに取り組みます。毎週土曜日の夕方自治会館に集まり、アイデアを出し合って活動内容を決めていきます。

「夜回りで最初は緊張して大きな声が出せなかったけど、今は地域の人に自分からあいさつできるようになった。」「喜んでもらえるとうれしい」と話してくれた子どもたち。こうした活動に子どもたちから関わることで、ボランティアへの垣根が低くなり、また地域の人のつながりを通して助け合う気持ち、お互い様といった気持ちが育ってほしい、ふるさとが好きな場所であってほしい、と長谷川さんは言います。一緒に活動を支える地域の人、少しずつですが着実に増えているようです。



●防災マップづくりに取り組む「ぼうさい探検隊」

ふけ町ふるさとクラブ

世話役●長谷川恭子 設立●2006年 メンバー●14名
連絡先●守山市浮気町346-10 TEL : 090-6604-8687
e-mail : hasegawa_@k.vodafone.ne.jp (携帯アドレス)



その他、分かりやすい言葉を使って話すことや、中立的な態度でいること、ワークショップの手法を使って進める、などありますが、最終的には、進行役が決めた会議でなく、自分たちで決めただ、という実感を持てるようにすることが大切です。

●会議のお助けアイテム～その3

「お茶とお菓子」

「食べ物を囲んでの話し合いは、決裂することが少ない」と言われますが、どうして食べながらの話し合いはうまくいくのでしょうか。お腹がすいていると、イライラするし、お腹が満たされるとゆとりがもてるからかもしれません。お菓子を出すタイミングは、会議始まってすぐより、煮詰まってきたときのほうが、脳に栄養が行き渡っていいアイデアや発言が生まれてきます。特に長丁場のときは有効です。会議に出すお菓子としては、ポテトチップスのような手に油がつくようなものは向きません。何気なく会議に出されているお茶やお菓子にもちゃんと役割があるのですね。



おうみ未来塾

リレーエッセイ

さわ くまお
澤 九麻男さん
[3期生]
こんぜ桃源郷(自然体験学校)



「里山に理想郷を求めて」

おうみ未来塾3期生の仲間達とともに都会と山村を結ぶ里山の交流をしています。子どもから大人まで幅広く里山資源の価値や魅力を共感できる活動をしております。特に私達の地域は文化財が多く、浪漫と夢を求めて都会の人が多く訪れて来られます。

最近では、おうみ未来塾8期生の「里山コミュニティー夢織」の仲間も参加され、木の上にツリーハウスを造り、またその横ではロープを使ってツリーイング体験をしています。高齢者の方は木工細工や竹細工や竹細工・炭焼き等をされています。若者はミニコンサートをし、更には楽しい大道芸もあります。特に楽しいのは南京玉すだれや皿回し、腹話術を里山案内人の方が指導してくれます。秋には山の幸を取り、収穫祭を行います。

里山の理想郷に触れてみませんか！興味のある方は栗東市ボランティア・市民活動支援センターまでお問い合わせください。(TEL: 077-553-0056)

NPOサロン見聞録

誰もが気軽に立ち寄れるまちなかの「居場所」や「サロン」をご紹介します。

NPO法人とよさとまちづくり委員会
『あったかホーム おやえさん』



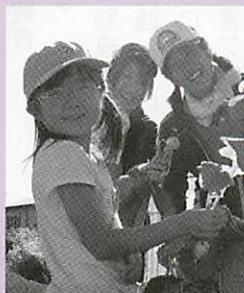
2000年には100軒余りと、町内に空き家が目立っていた豊郷町。対策を考えようと町内の30代を中心とした有志が集まってNPO法人とよさとまちづくり委員会を立ち上げ、滋賀県立大学の学生との協働で、古民家を再生・利用する活動「とよさと快蔵プロジェクト」を開始しました。「おやえさん」はその一環で、40年来空き家になっていた民家を学生の手で改装。2階に学生が下宿し、1階をコミュニティスペースとして開放しています。町内の高齢者や子どもたちが利用し、世代間交流も活発に。「周りの人たちが元気になれば元気な町になる！」をスローガンに、さらに活動の輪を広げています。

空き家になっていた古民家を再生
まちの活性化と世代間交流をめざす

【問】NPO法人とよさとまちづくり委員会
TEL&FAX: 0749-20-1875
URL: <http://www.eonet.ne.jp/toyo-machi/>
「おやえさん」の開館時間: 火・木・土 10:00~17:00



▲紀伊国屋塾



▲子ども農業体験

中心になり、かまど造りプロジェクトを結成し、自分で火をおこして飯を炊くかまど体験の場を開設しました。

一方、過疎化が進む安曇川では都市と農村をつなぐファームトラスト運動に取り組んでいます(2004年グリーンツーリズム大賞優秀賞受賞)。都会の若者が休日を利用して、地元の農家の高齢者に教えてもらいながら、野菜作りに挑戦する場を提供。今年は小学生を対象に「わくわく子ども塾」を開催、大根を自分で抜いて料理して食べたり、ヨーグルトやブルーベリージャムを作るなど、楽しみながら農業と食にふれる体験を行いました。琵琶湖と山の間にある里山を舞台に、「安全な食」や「有機農法」をキーワードに人と人、人と自然をつなぐ活動を目指します。

孫の手ナビ

かゆい所に手が届く



いい会議をしよう！③ ~いよいよ会議開催。のツボ~

前号で会議の準備をやりました。
今回は会議当日のツボです。

当日の役割としては①進行役、
②書記、③タイムキーパー、④提
案者・発表者があります。まずは
役割分担をしてできるだけ皆が関わる仕組みにしましょう。い
つも同じ人でなく、交替でやるほうが個人の負担軽減やスタッ
フのトレーニングにもなりますね。

今回は会議当日のキーパーソンである①進行役について、お
話します。進行役は、与えられた時間内で会議の目的を達成
するため、効果的なコミュニケーションの場を作って、みんな
のパワーを引き出して、意見や考えをまとめて合意形成に導く
人です。終了時には決まったこと、次に持ち越すことを整理し
て終わります。いい会議をするために、進行役が大切にしたい
心がけの一例をご紹介します。



●発言しない人がいます。あなたはどんな言葉をかけますか？

A：「しっかり発言してください」「頑張って発言して」と指
導的な言葉をかけたり、「あの人は何もしゃべらないから」
と一応声かけはするものの最初からあきらめている。

B：「じゃあ、とりあえず1人ずつ思ってみたことを書いてみ
て、1分ずつ発表してみましようか」ともちかけて、発言
を引きだそうとする。

両者のはたらきかけは、同じ事をめざしていても、その方法
はまったく逆です。進行役に大切な心がけはB。Bは全員に発
言の機会が与えられ、書くというクッションをおくことで考
え方が整理され、発言がしやすくなります。あきらめずに安
心して発言できる仕掛けを考えていきましょう。

●「話し上手」か「聴き上手」。 進行役にはどちらが大切だと思いますか？

進行役の基本はまず「聴く」ことです。会議の主役は参加者
です。参加者の意見を聴かない進行はありません。参加者に
とっては、「話しを聴いた」より「話しを聴いてもらった」ほ
うが能動的。また、参加者は自分の発言した意見について、
どのように感じられたか、歓迎されたか気になるものです。
自分の意見と正反対であっても、まずは発言したことに感謝
や共感の気持ちを態度や言葉で伝えましょう。そのことで、
話しやすい環境や関係がができます。

Sekenよし

企業の社会貢献や
市民・行政との
協働etc.をご紹介

有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊國屋

TEL.077-598-2623 FAX.077-598-2633
http://www.bbfinokuniya.com

四半世紀余の有機農法の実践から 美しい地球を次世代に手渡すために 三世代交流や都会と農村をつなぐ 食育や農業体験に取り組んでいます。

26年前に琵琶湖を望む美しい景色に魅せられ、岩田さ
んはブルーベリーの栽培を始めました。毎日草を引きなが
ら自分が触れているこの地球を汚染してはならないと、農
薬や除草剤、化学肥料を一切使わない有機農法を実践し、
1998年にはJAS認定を受けました。私たちは大地から
いただくもので命をつないでいます。その美しい大地を次
世代に残すことが使命と考え、観光農園やフレンチレスト
ラン、グリーンツーリズムなど三方よしの経営で、昨年
「第1回滋賀CSR大賞ベストプラクティス賞」を受賞しま
した。



▲岩田康子社長



▲カフェテリア結紀伊國屋

2003年より農業や食、環境をテーマに、年4回「紀伊
國屋塾」を開催しています。昨年は「まごはやさしい大作
戦」と題して豆・ごま・わかめ・野菜・魚・しいたけ・い
も類を中心にした日本人にやさしい食について学び、仰木
の棚田で有機米栽培に挑戦しました。今年度は大津市坂本
で自給自足で暮らす「麦の家」主宰の山崎隆氏を迎え、本
当の豊かな暮らしについて考えます（12/8と3/15・17：
30~）。

2004年からは成安造形大学と協働で、建築から内装ま
で間伐材や稲藁、土などを使った学生たちのセルフビルド
によるカフェテリア「結紀伊國屋」の運営を手掛けていま
す。食材の安全性が軽んじられている今、地産地消を柱に
冷凍加工食品は一切使わず、地元の採れたての野菜を中心
にした手作りの食事を提供しています。今年秋には学生が

元気NPO にゅ〜す 宅配便

元気に活動しているNPOからの
活動レポートをお届けします。

GENKI NPO NEWS TAKUHAIBIN



子どもの美術教育をサポートする会

File 01

被災地子ども支援「かしわぎキッズミュージアム」
8月25日(土) 26日(日)



8年前より、県内の美術館・博物館と学校とをNPOが繋いで、子どもたちに本物の文化芸術体験をする連携授業活動を実施しています。本年7月、新潟県中越沖地震が起き、被災地の子どもたちに何かできないかと考え、8月25日、26日に「かしわぎキッズミュージアム」という、アート体験プログラムと、屋台をするイベントを開催することにしました。さまざまな方からの支援も集まり、有志40名が現地へ向かいました。「支援に行く側の滋賀と、受け入れる側の柏崎の、温かいネットワーク」により、2日間で550名の親子が集まり、会場は笑顔と関西弁と柏崎弁の会話が溢れました。アートによる被災地の子どもへの心の支援の素晴らしさを実感し、滋賀の人の力、それぞれの立場のネットワークを生かした、協働の力があればこそ実現できたことに感謝しています。

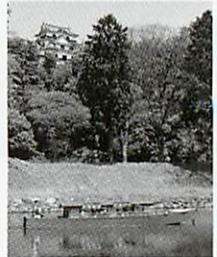
〒520-2144 大津市大萱5丁目30-3
TEL・FAX: 077-543-8569
e-mail: bisapo@hotmail.co.jp

NPO法人小江戸彦根

File 02

~ゆらっと遊覧~彦根城お堀めぐり屋形船
平成19年3月22日より運航開始
彦根城内堀にて毎日運航

平成19年、彦根城は築城400年を迎え、これに合わせ、3月21日より国宝・彦根城築城400年祭が開催されました。私たちNPO法人小江戸彦根はこれを契機に彦根城の魅力をより多くの方に向けて頂こうと、また彦根の町に長時間滞在し「時間と空気のゆっくり流れるまち」彦根を堪能してもらう為のツールとして、内堀を50分かけて遊覧する屋形船を運航しております。ゆっくり進む屋形船からの景色はすばらしく、水面からの視点で見上げる壮大な石垣や城郭は新しい彦根城の魅力となっております。また、身体障害者や、脚や腰を悪くされている方々にとって、城山に登らずとも彦根城を臨むことができる屋形船は、最適の観光ツールになってきています。11月25日の彦根城築城400年祭終了後も屋形船運航を継続して行います！運行時間、料金等、詳しくはホームページをご覧ください。



©松居直和

〒522-0061 彦根市金亀町7-5 ひこね市民活動センター内
TEL: 080-1461-4123 FAX: 0749-26-4868
e-mail: koedo@xa2.so-net.ne.jp
URL: http://koedohikone.sakura.ne.jp

マキノまちづくりネットワークセンター

File 03

「たかしま市民活動屋台村in朽木」
9月9日(日)

活動8年目を迎えた当会では、設立当初からの“地域に根ざした活動”に加え、「かわら版」の発行や「交流会」の開催などの“市域にむけての活動”を行っています。昨年高島市で開催された「おうみ市民活動屋台村」での経験を生かし、今秋9月9日には「たかしま市民活動屋台村in朽木」を実行委員会形式で開催し、参加82団体が展示ブースやフォーラム・体験&実演ブースやステージ発表等の企画を同時に進め、会場は歓声で溢れていました。多くの参加団体や約2000人の来場者、実行委員会や会場準備等延べ90名以上のスタッフが、活動や地域の絆をこえて一同に介し、総てがひとつになった「屋台村」。今後も「屋台村」で培ったネットワークや交流を生かし、多くの方が「まちづくり活動」に参加・参画できる機会をつくり「たかしま」の市民活動がより活性化するように“支援”していければと思っています。



住所: 高島市マキノ町高木浜1-14-2
TEL・FAX: 0740-28-8002
e-mail: machinet@ex.biwa.ne.jp
URL: http://www.ex.biwa.ne.jp/machinet/

NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク

File 04

「第4回全国菜の花学会・楽会in東近江」
8月5日(日)~6日(月)

菜の花プロジェクト誕生の地「東近江市」で菜の花学会・楽会を開催しました。菜の花プロジェクトが目指す「地域自律の資源循環型社会づくり」に向けては息の長い取り組みが必要であり、現役世代のみならず、小学生、中学生、高校生、大学生等の未来世代が菜の花プロジェクトの趣旨を理解して、自ら積極的に参加する仕組みをつくり出す必要があります。この「菜の花学会・楽会」は、現役世代が獲得した知恵や知識を未来世代に伝えるとともに、未来世代の活動を相互に交流することで持続的な活動を創り出そうとするものです。大会は、コウノトリと共に生きる豊岡市長の基調講演の後、中学、高校、大学、地域、企業からの事例報告や関係者によるパネルトークで学びを深め、BDFカート試乗や交流会、BDF発電による光の祭典「コトナリエ」の見学を楽しみ、菜の花プロジェクトの更なる発展を確認しました。



住所: 蒲生郡安土町上豊浦1273
TEL・FAX: 0748-46-4730
e-mail: webmaster@nanohana.gr.jp
URL: http://www.nanohana.gr.jp

次号「元気NPOニュース宅配便」に掲載する活動レポートを募集します！(11・12・1月に開催する(した)活動が対象です。)ご希望の団体は淡海ネットワークセンターのホームページをご覧ください。[締切: 1/10]

伝言板に掲載できなかった情報は、センターのホームページに掲載しています。URL●<http://www.ohmi-net.com/>

市民活動情報

大津百町おもしろ発見連続講座「町家 まちなか 萬塾」

各講座内容●第1～3回は終了。
 ☆第4回／12月8日(土)13:00～「大津を旅した人たち」江竜善之さん(米原市文化財保護審議委員)
 ☆第5回／1月13日(日)13:00～「能管 馬頭琴 ござーと」岡林 立哉さん(馬頭琴とホーミー)野中久美子さん(風笛舎)
 ☆第6回／1月26日(土)13:00～「西鶴・近松の作品から大津をみる」南里美さん(京都橋大学文化政策研究センター)
 ☆第7回／2月9日(土)19:00～「津軽三味線ライブ」藤元辰也さん
 ☆第8回／2月16日(土)13:00～「むかし むかし 牛鍋物語」西居基晴さん(近江牛 松喜屋)
 会場●大津百町館(丸屋町商店街・曳山展示館斜め前)
 受講料●各1回参加:700円
 ☎ 大津百町館
 大津市中央一丁目8-13
 TEL・FAX:077-527-3636

第18回OTCマダニ 知ろう解ろう 自分の街の外国籍住民

▶ 12月13日(木)19:00～21:00
 ☆シリーズ2/
 在日コリアン(特別永住者2)
 『差別された現実』
 『なぜ韓国語ができないのか?』など…
 内容●自分たちの街に住んでいる国籍や民族・宗教などの異なる人々との相互理解を深めるため、外国籍住民が言いたい(言えなかった)こと、そして、日本人が聞きたい(聞けなかった)ことを本音で語ってみませんか。シリーズでディスカッションをしていきたいと思っております。
 会場●渡来人歴史館3階(JR大津駅南口より徒歩5分)
 参加費●無料
 ☎ 近江渡来人倶楽部 事務局
 大津市柳が崎5-25
 TEL:077-526-2929
 FAX:077-525-5300
 e-mail:otc-21@world.odn.ne.jp
 URL:
<http://www1.odn.ne.jp/trying/index.html>

編集後記

市民の力が既に行政を凌駕した、と思うことがこれまでに何度かあった。部分的なことではあるが、市民活動は着実に力をつけつつあると思う。今回の取材でもそう感じた。草の根という表現をこのところ少し聞かなくなったと思っていた矢先だったので、感慨がひとしお高まったのかも知れない。楽しい一日であった。(森口)

大津・港まちづくり活性化イベント まほまほフリーマーケット deあすと浜大津

開催予定日時●毎月第3日曜日開催 ※雨天決行
 ▶ 12月16日(日)10:00～16:00
 ≪Xmas deあすと浜大津キッズなフリマ≫
 ▶ 1月20日(日)10:00～16:00
 ≪あすと浜大津SKYな音楽人フリマ≫
 ▶ 2月17日(日)10:00～16:00
 ≪あすと浜大津キッズなフリマ≫
 ▶ 3月16日(日)10:00～16:00
 ≪あすと浜大津アートなファミリーフリマ≫
 ※テーマは諸事情により変更する場合があります
 会場●明日都浜大津2Fガス燈広場(京阪浜大津駅すぐ)
 入場料●無料
 ☎ 大津市ボランティア連絡協議会
 TEL:077-525-9316
 FAX:077-521-0207
 e-mail:maho-maho@otsu-vf.net
 URL:<http://www.otsu-vf.net>

第1回栗東演劇祭「仰空瞳(おおぞらどう)」

▶ 1月5日(土)18:00～21:00
 ▶ 1月6日(日)13:00～17:00
 空を仰ぐそんな瞳を忘れていた。今、地域の繋がりを一番欲しているのは将来に展望を持つことにできない若者たちではないでしょうか。
 観劇料金●一般 2,000円、学生 500円、高校生以下無料
 会場●栗東芸術文化会館ささき中ホール
 ☎ 栗東市演劇祭「仰空瞳」実行委員会
 大津市仰木の里東8-12-16
 TEL:090-2593-2474
 FAX:077-573-6797
 e-mail:
sorao.life_05@w7.dion.ne.jp

～ゆらっと遊覧～ 彦根城お堀めぐり屋形船のご案内

運航時間●平日10:00～15:00(1時間に1便、毎時00分に航航、冬期は14:00まで)
 ●土・日・祝日10:00～16:00(冬期は15:00まで)
 乗船料●大人1,200円
 子ども(小学生以下)600円(3歳以下のお子様は無料)
 運航時間●約50分間
 乗船場所(券売所)●玄宮園前船着場
 ☎ NPO法人小江戸彦根
 TEL:080-1461-4123
 FAX:0749-26-4868
 URL:
<http://koedohikone.sakura.ne.jp>

Project.1 拠点施設をみんなで建てて! 建築ワークショップ参加者急募!

どっぽ村は、一人一人が農業と建築を身につけることから、人が人として暮らす場を取り戻していく取り組みです。来年4月からの本格スタートに向け、集会所や宿泊に使うための拠点施設をみんなの手で建てようと思います。新たなことに挑戦する情熱さえあれば、年齢・性別・経験は問いません。われこそはと思う方、思い切ってお参加ください。
 作業予定●12月2日(日)造作工事 / 12月9日(日)造作工事
 12月16日(日)造作工事 / 12月23日(日)竣工
 (天候や作業の進捗状況によって変更あり)
 時間●9時～夕方まで
 集合場所●大戸洞舎(湖北町上山田1237)
 ※原則として継続的に参加(徐々に道具と仲間に慣れていただくため)
 ※危険作業時は保険(300円程度)にご加入ください。
 持ち物●必須:お弁当、お茶、汗拭き、着替え(あれば:かまづち、のこぎり、のみ)
 ☎ 上山田どっぽ村をつくる有志の会
 湖北町上山田1237 農業法人大戸洞舎内
 TEL:090-3495-7599(村上) FAX:0749-78-2164
 e-mail:info@doppo.jp.org

ヴォーリス建築連続講座

明治38年、米國から近江八幡に英語教師としてやって来たウィリアム・メルル・ヴォーリス。彼は生涯をこの地で過ごし、国内外で1,600棟を超える建築を設計しました。「ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会」では、旧八幡郵便局舎などヴォーリス建築にもっと親しんでいただき、ヴォーリス精神と建築遺産と一緒に語り継いでいただける方を増やしていくため「ヴォーリス建築連続講座」を開催します。ぜひご参加ください。
 各講座内容●第1～3回は終了
 ☆第4回／12月8日(土)14:15～16:30
 『全国に残るヴォーリス建築』
 全国に点在するヴォーリスの建築。その内容と魅力について一粒の会ヴォーリス建築事務所若手ホープが語ります。
 案内人:一粒社ヴォーリス建築事務所 福永貴之
 ☆第5回／12月22日(土)14:15～16:30
 『ヴォーリスの生い立ちとキリスト教伝道活動』
 ヴォーリスが行ったキリスト教の伝道活動についてその背景と共に語っていただく予定です。
 案内人:調整中
 ※上記のほか、第6回特別編として受講生による自主研究発表会を1月下旬に予定しています。
 参加費●各回1,000円
 ☎ NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会 事務局
 近江八幡市仲屋町中8番地 TEL/FAX:0748-33-6521
 (事務局は常駐ではありません。電話がつかない場合があります)
 e-mail:zmotoki@hayoo.co.jp

助成金情報

◇締切日:12月21日(金)
 ●JATA環境基金 地球にやさしい市民活動支援助成 / (社)日本旅行業協会
<http://www.jata-net.or.jp/>
 ◇締切日:12月28日(金)
 ●平成19年度NGO事業補助金 / 外務省
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo.html
 ◇締切日:1月15日(火)
 ●地球にやさしい作文・活動報告コンテスト / 読売新聞社
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/sakubun/>
 ◇締切日:2月15日(金)
 ●アウトドア自然保護基金プログラム / コンサベーション・アライアンス・ジャパン アウトドア自然保護基金
<http://www.ca-j.org/index.html>
 ◇締切日:2月29日(金)
 ●子育て支援助成近畿ろうきんNPOアワード / 近畿労働金庫
<http://www.rokin.or.jp/npo/>
 ◇締切日:1月18日(金)
 ●住まいとコミュニティづくり活動助成事業
<http://www.hc-zaidan.or.jp/>
 ◇締切日:1月31日(木)
 ●セブン・イレブンみどりの基金
<http://www.7midori.org/>
 ※詳細や最新情報は当センターホームページ「助成金情報」をご覧ください。

第5回（2007年）おうみNPO活動基金中間報告会を行いました。 多くの気づきで次のステップへ

おうみNPO活動基金はNPOの組織の基盤を強めたい、経営力を高めたい、他のセクターと協働して地域の課題を解決したい、市民活動を支援したい、そういう思いをもって活動している団体を応援しています。

9月22日に今年の採択13団体の中間報告会を行いました。中間報告会は団体の事業の進捗状況、これまでの助成金の使途、新たな課題、事業展開などを聞き、団体の自立に向けた課題について運営委員が助言します。1月から始まっている活動を中間地点で見直していただき、さらにステップアップするための気づきの機会にさせていただく場です。

今年の採択団体のうち3つの団体の活動を紹介します。



▲中間報告会で発表する団体



▲団体の発表後質疑応答

■ 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会【継続3年目】

山門水源の森は琵琶湖の北、西浅井町にある高層湿原で、この森の生物多様性保全の活動をしています。今年の助成金では、多様な昆虫が息できる環境創出事業や、次世代に引き継ぐための教育ゾーン整備事業などを行い、今年始めて子どもの自由研究支援事業を組み立てました。朝、子どもたちが山に入り、1日かけてできる研究を一緒に考え記録を取って学ぶものです。委員からは「自由研究支援はアイデア、事業として組み立ててもニーズはあると思う」「現在県が管理している山なので難しいと思うが、実績を作って自立を目指してほしい」と激励を受けました。



▲小学生の自由研究支援
(山門水源の森 森の楽舎にて)

■ 特定非営利活動法人絵本による街づくりの会

特定非営利活動法人絵本による街づくりの会は、里山の自然あふれる湖西地域で絵本を通して「こどもの笑顔があふれる街に」「豊かな心をはぐくむ街に」という思いを大切にマキノを中心に日々活動している団体です。

今年の助成事業はくらしの中に絵本を～大人のための絵本学講座～です。カラーパンフのPRチラシの作成やホームページの作成、大人のための絵本学講座（10回連続）を行っています。連続講座は各回受講者の入れ替わりはありますが、平均37名/回で福井や神戸からの参加者もありました。この講座は高島市図書館の共催事業となったので、大型ポスターの作成や広報面での支援を得ることができて今後へつながったと報告がありました。委員からは「課題の整理、今後の方向性も含めてよく考えられている。活動としてはこれからネットワークを広げていくということなので、そういう意味でもここにいる先輩の団体と情報交換をして参考にしてほしい」と述べられました。



▲講座の司会進行を担当するスタッフ
(絵本による街づくりの会)

■ 特定非営利活動法人あさがお【継続2年目】

特定非営利活動法人あさがおでは、高齢者・障がい者等とその介護者に対して、保健・福祉・医療に関する総合相談を実施し、財産権や適切なサービスを利用する権利を守る活動をしています。今年の助成事業は地域支援員養成事業と法人後見事業です。地域支援員とは認知症などで判断能力が衰えた高齢者を地域で見守る体制を充実するため、研修、実習、スーパーバイスなどを通じてあさがおの相談活動や法人後見活動を支える人です。委員からは「この講座の参加者は今後も活動を続けてもらえそうか」「成年後見をしている団体は全国でどのくらいあるのか」と質問があり「参加者は主婦や団塊の方々などさまざまだが、高齢者や精神障がいの方々への対応は難しいものがあるので、今後を見極めたい。全国では現在27団体へ広がり連携もできつつある」と報告がありました。

62号の特集アンケート テーマ：「市民活動 これからの10年」

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで淡海ネットワークセンターまでご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。

Q1.市民活動やNPOはこれからの10年で大きな役割を担うと思いますか？

a.はい b.いいえ c.変わらない

Q2.市民活動が発展するための重要なポイントは？

a.人材 b.資金 c.ネットワーク
d.市民参加 e.その他

Q3.あなたが市民活動に参加するとしたら？

a.まちづくり b.教育 c.福祉 d.環境 e.国際協力 f.その他

▶アンケート締切：1月末日



新刊書案内

「市民活動のための自治体入門」

松下啓一著 (社)大阪ボランティア協会発行
定価：800円(税込)

NPOと行政の協働が大変話題になっています。その際、NPOは行政とどのようにお付き合いをすればいいのでしょうか。この本は、行政の仕組みや職員の行動様式などをととても分かりやすく書いています。NPOが行政職員と接するノウハウも紹介されています。「お役所」にいく前にぜひ一読お勧めしたい一冊です。





淡海ネットワークセンター 設立10周年記念事業 **現場で学ぶ！おうみ市民活動楽宿**

NPOの活動現場の空気の中、NPOや市民活動の現状や課題、これからの方向性について、いろんな人が集まって、楽しく語り合いながら学びます。NPOや市民活動にすでに取り組んでいる方、NPOとの協働に関心のある自治体職員や企業の方、NPOや市民活動に興味はあるけどよく知らないという方など、ぜひご参加ください！

◆日程/12月21日(金)～22日(土)
1泊2日(どちらか1日の参加も可能です)

◆会場/
【1日目・宿泊】
NPO法人蒲生野考現倶楽部「しゃくなげ学校」
(蒲生郡日野町鎌掛2362)
【2日目】近江八幡市マルチメディアセンター
周辺(近江八幡市出町645-4)



1日目の会場「しゃくなげ学校」

- ◆おもなプログラム
- 【1日目】
14:00～15:15
基調講演
「中心の無いネットワークで社会を変革する」
講師：飯島 博さん
(NPO法人アサザ基金 代表理事)
15:30～17:30
座談会「みんなで語る『協働』と『継続』」
話題提供：井阪尚司さん
(NPO法人蒲生野考現倶楽部 理事)
18:30～/年忘れ交流会※一品持ち寄り歓迎です！
話題提供：松井賢一さん
(滋賀県東近江地域振興局農産普及課 主査)
- 【2日目】
10:00～14:00
フィールドワーク
「はちまん市民活動まちあるき」
ガイド：木ノ切英雄さん
(ハートランド推進財団 常務理事)
- ・「協働の現場～
八幡商業高校ファサード再生プロジェクト」
伴政憲さん
(NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会 会長)
西村利寿さん
(滋賀県土木交通部建築課 副主幹)
 - ・「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」
西村恵美子さん(八幡堀を守る会 事務局長)
 - ・「町家を活かした福祉事業」
成瀬和子さん
(NPO法人しみんふくし滋賀 常務理事兼事務局長)
- まとめ「楽宿をふりかえって」
コーディネーター：飯島 博さん
(NPO法人アサザ基金 代表理事)

- ◆対象/市民活動やNPOに関心のある方ならどなたでも。自治体職員や企業関係の方も歓迎です！
- ◆定員/40～50名程度
- ◆参加費等/参加費2,000円(どちらか1日の場合は、1,000円)のほか、食事・宿泊に係る実費(全て参加の場合：5,000円<1泊3食>)を自己負担いただきます。
- ◆移動手段/無料貸切バスにより移動しますが、お車等での参加も可能です。

【バスのご案内】
21日(金) 往路
12:30 集合・出発(大津駅前 裁判所前)
13:15 集合・出発
(近江八幡駅南口サティ側)
14:00 着「しゃくなげ学校」
復路 17:45 出発「しゃくなげ学校」
18:45 着(近江八幡駅南口サティ側)
19:45 着(大津駅前 裁判所前)

22日(土) 往路
9:00 出発「しゃくなげ学校」
9:45 集合・出発
(近江八幡駅南口サティ側)
10:00 着「マルチメディアセンター」
復路 15:15 出発「マルチメディアセンター」
15:30 着(近江八幡駅南口サティ側)
16:30 着(大津駅前 裁判所前)

◆お申込み/ホームページまたはチラシに掲載の申込書によりEメール・FAX・郵送により、12月14日(金)までに淡海ネットワークセンターまでお申込ください。

活動団体ネットワーク促進事業 採択団体が決まりました

淡海ネットワークセンターでは、地域課題の解決や住みよい地域づくりを実現するための、市民活動団体のネットワークづくりを応援する「活動団体ネットワーク促進事業」を実施しています。このたび、下記の4つのネットワークを採択することが決まりました。多数のご応募をいただきありがとうございます。

◆応募期間：2007年9月1日～9月30日 ◆応募団体：9団体
◆負担決定総額：200,000円

団体名	ネットワークの名称
NPO法人 五環生活	滋賀のNPO分野で次代を担うネットワーク
こども交流会実行委員会	こどもに関わる大人達の交流会
滋賀県輸送福祉ネットワーク	福祉輸送ネット・しが
ひょうたんからKO-MA	映画・映像関連団体ネットワーク事業

第6回(2008年) おうみNPO活動基金助成 公開プレゼンテーションのご案内

NPOの基盤強化を支援する「おうみNPO活動基金助成」選考のための公開プレゼンテーションを行います。入場自由ですので、ぜひお越しください。

◆日時：まち普請事業助成
12月15日(土) 14:00～15:30
自主・協働・NPO活動支援機能助成
12月16日(日) 10:00～17:00(予定)

◆場所：県民交流センター(ピアザ淡海) 207会議室

※詳細については、決定次第、ホームページとメールマガジンでお知らせします。

第5回(2007年) おうみNPO活動基金助成団体成果発表会のご案内

助成を受けている14団体が成果を発表します。今後助成の申請を考えている団体はもちろん、基盤強化を考えている団体にとっても参考になると思います。入場無料ですので、ぜひお越しください。

◆日時/2月24日(日) 13:00～17:00(予定)
◆場所/県民交流センター(ピアザ淡海) 305会議室
※詳細については、決定次第、ホームページとメールマガジンでお知らせします。

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団 淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
■http://www.ohmi-net.com/ ■E-mail:office@ohmi-net.com

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

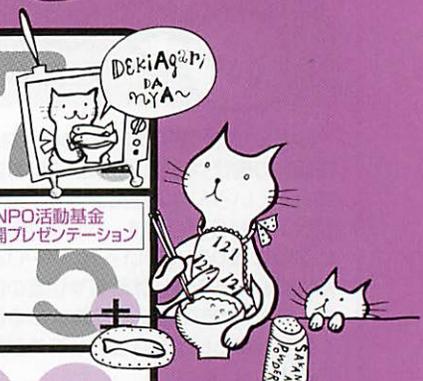
●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など

©無断転載を固くお断りします。



3 ★ 国際障害者デー 月	4 火	5 水	6 木	7 金
11 火	12 漢字の日 水	13 木	14 金	15 土
19 水	20 道路交通法施行記念日 地域安全の日 (毎月20日) 木	21 金	22 改正民法公布記念日 土	23 日
27 木	28 金	★ 29 土	★ 30 日	★ 31 月
★ 3 木	4 金	5 土	6 日	★ 7 月
11 金	12 スキーの日 土	13 日	14 成人の日 タロとジロの日 月	★ 15 警察庁創設記念日 火
19 のど自慢の日 土	20 地域安全の日 (毎月20日) 日	★ 21 料理番組の日 月	22 ジャズの日 火	23 電子メールの日 水
27 国旗制定記念日 日	★ 28 月	29 南極の日 世界救らいの日 火	30 水	31 木
3 日	★ 4 月	5 火	6 水	7 北方領土の日 木
11 建国記念日 月	★ 12 火	13 苗字制定記念日 水	14 木	15 金
19 火	20 アレルギーの日 地域安全の日 (毎月20日) 水	21 国際母語の日 木	22 世界友情の日 金	23 ロータリー設立記念日 土
27 水	28 木	29 金		

おうみNPO活動基金
(B) 選考公開プレゼンテーション



10周年記念事業「現場で学ぶ!おうみ市民活動楽宿」



★ネットワークセンター休館日

